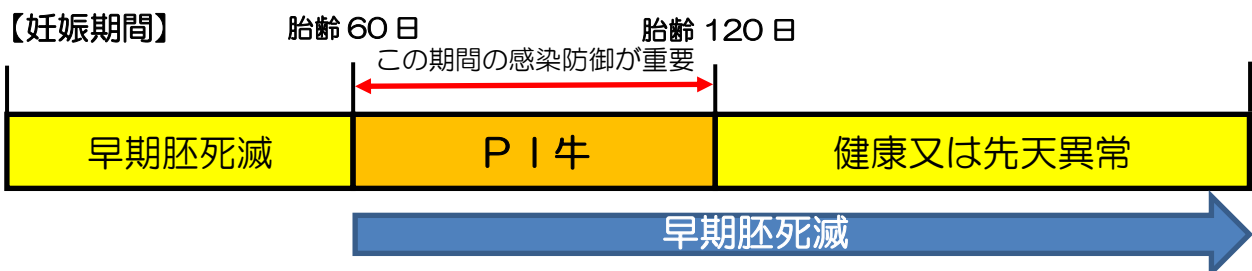


管内の乳用牛農場で牛ウイルス性下痢感染牛を確認！

牛ウイルス性下痢（BVD）とは

- 牛ウイルス性下痢は遺伝子型で1型・2型に分類され、**届出伝染病**に指定
- 一般的に成牛感染では一過性の**発熱や呼吸器症状、下痢**で多くは回復
- 感染しても症状を示さない場合も多い（不顕性感染牛）
- 妊娠牛が感染すると**胎盤から子牛に感染**し、感染時期の違いで**死産や異常産が発生したり、生涯 BVD ウィルスを排出する持続感染牛(PI牛)**が生まれる。
- 牛群内にPI牛がいると、感染が知らない間に牛群内に広がり生産性が著しく低下するため、**PI牛の早期発見と淘汰**が重要です。



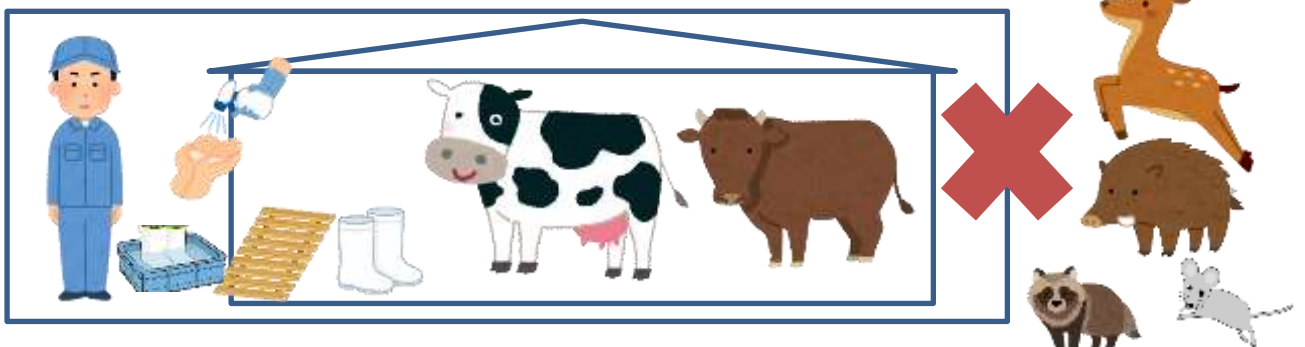
◆症状

- ・急性感染牛では、発熱・下痢、呼吸促迫、流産・異常産等
- ・PI牛は、慢性的下痢、成長不良等
- ・急性感染牛の致死率は低く（5～10%）、回復後は終生免疫を獲得する。

◆予防対策

- ・ワクチン接種※生ワクチン株でもPI牛が生まれるので種付け前や妊娠母牛には不活化ワクチンを接種
- ・農場消毒の徹底 ・導入牛の隔離と馴致
- ・農場内ウイルスの監視とPI牛の早期摘発淘汰
- ・子牛を預託に出す農場は、BVD 検査とワクチン接種のため連絡調整させていただきます。
- ・希望があればバルク乳検査や子牛抽出検査をしますので連絡願います。
- ・本病を疑う症状が確認された場合は、当所に連絡願います。

～飼養衛生管理基準遵守の再徹底をお願いします～



京都府中丹家畜保健衛生所：福知山市字半田 371-2

TEL 0773-25-1860 FAX 0773-25-1861（休日・夜間は転送されます）